

ビジターセンター行事「アメリカザリガニ勉強会」

- 1 日時：令和3年10月31日（日）午後1時30分～3時30分
- 2 参加人数：11人
- 3 講師：保崎有香 氏、 補助：太田充 氏
- 4 講座の内容

(1) 開会の挨拶（内野）

9月のセンター行事は非常事態宣言発令中のため中止または延期になりましたが、延期になっていた「アメリカザリガニ学習会」を開催することができよかったです。

(2) 講話および事前説明（保崎）

《講師自己紹介》

講師は、磐田南高校在学中生物部に所属していたとき、ベッコウトンボの激減を受け、保護・増殖の調査活動を行った。大学・大学院では生物多様性（外来種アメリカザリガニからの生態系管理）について研究を進めた。

《日本に生息するザリガニについて》

日本に生息するザリガニは、「ニホンザリガニ」、「ウチダザリガニ」、「アメリカザリガニ」の3種類である。「ニホンザリガニ」は唯一の在来種で東北・北海道に生息している。「ウチダザリガニ」は北アメリカ原産の外来種で、食用を目的に日本に移入された。現在は多くが北海道に生息している。「アメリカザリガニ」はアメリカ合衆国南部を原産とする外来種で、食用として持ち込んだ「ウシガエル」の餌として持ち込まれ、その中で逃げ出したものが繁殖し、現在日本全国で見られるようになった。日本ではほとんど食されることはないが、アメリカ合衆国や中国では美味とされザリガニ料理は人気がある。

《桶ヶ谷沼とアメリカザリガニ》

桶ヶ谷沼では1999年にアメリカザリガニが大発生してベッコウトンボをはじめトンボのヤゴが餌になったのか、翌年ベッコウトンボの数が大きく減った。そのため、駆除活動を実施し年間3万匹のアメリカザリガニを駆除した。その後もベッコウトンボの保護のためアメリカザリガニの駆除や管理を続けている。大発生はしていないが桶ヶ谷沼の全域及び鶴ヶ池全域で多くが生息している。桶ヶ谷沼ではアメリカザリガニは、ウシガエル、ライギョ、ミシシippアカミミガメの餌となり、アメリカザリガニはヤゴや小魚、水生昆虫、落ち葉を餌としている。また、アメリカザリガニは水草を切って遊ぶ習性があり、これが沼から水草が少なくなった原因ともなり、トンボの減少の一因ともなっている。

桶ヶ谷沼では毎年7月と9月に定期的にアメリカザリガニの個体数調査を行っている。方法は餌を入れた罠（かに網）を沼の所定の場所に一昼夜仕掛け、翌日網を回収しかかった個体数と雌雄別、大きさを記録している。全体的に落ち葉の多い場所に多くの個体が生息している傾向がみられる。罠には他にウシガエル、ミシシippアカミミガメ、クサガメ、イシガメ、スッポン、ライギョ、モツゴ、ナマズなどもかかることがある。今後もヤゴの保護や沼の環境保全のためにアメリカザリガニを増やさないように継続的に取り組んでいきたい。

《本日の活動内容》

天気良ければ、参加者を2グループに分け、沼の6か所に仕掛けたトラップ引き上げあげ、①水深、②水温、③水草の量、④落ち葉の量、⑤ザリガニをはじめトラップに入っている生き物の種類・個体数を調べる予定であったが、雨天のため午前中に各箇所を回収してきたザリガニを場所別にバケツに入れてあるので、そのザリガニの調査を行う。

(3) 調査及び集計結果

捕獲したザリガニを講師の指導のもと、オス・メスの判別とノギスを用いての大きさ調査（甲長の長さ L：30mm以上、M：15mm以上30mm未満、S：15mm未満）を行い、それぞれの頭数を集計表に円形シールで表示し、ビジターセンター内に掲示した。



所長挨拶



講話のようす



罌を沼の16か所に仕掛けました



このザリガニの甲長は・・・



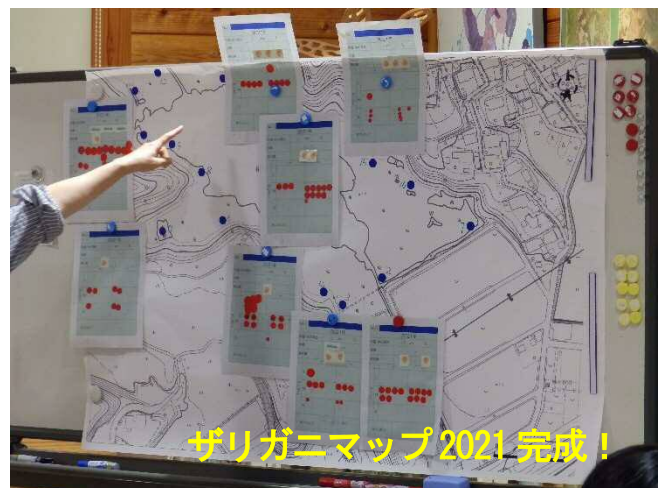
甲長を記録しました



会場全体のようす



集計表にシールを貼りました



ザリガニマップ2021完成!